

〔図説〕 松本歯学 33 : 327~329, 2007

key words : 3DX[®] — 根尖病変 — 上顎左側中切歯 — 埋伏歯

歯科用小照射野 X 線 CT (3DX[®]) 画像診断： 治療方針決定に 3DX[®] が有用であった 1 例

内田 啓一¹, 黒岩 博子¹, 片瀬 志穂², 杉野 紀幸¹, 塩島 勝¹

¹松本歯科大学 歯科放射線学講座

²松本歯科大学 歯科補綴学第二講座

Diagnostic imaging by limited cone beam CT (3DX[®]):
A case of 3DX[®] of usefulness in decision on courses of treatment

KEIICHI UCHIDA¹, HIROKO KUROIWA¹, SHIHO KATASE²,
NORIYUKI SUGINO¹ and MASARU SHIOJIMA¹

¹Department of Oral Radiology, School of Dentistry, Matsumoto Dental University

²Department of Prosthodontics II, School of Dentistry, Matsumoto Dental University

歯内治療において根尖部病変の範囲や周囲の解剖学的構造物との関係を把握するためには画像診断は重要であり、とくに歯科用小照射野 X 線 CT (以下 3DX[®] とする) における画像診断が非常に有用である¹⁾。今回われわれは、上顎左側中切歯部における治療方針において 3DX[®] が有用であった 1 例を経験したのでその画像と共に報告する。

患者は 39 歳の男性。上顎左側中切歯部の審美障害を主訴に 2007 年 8 月 4 日受診した。受診時、上顎左側中切歯部歯肉の発赤や腫脹は認めなかった。審美的修復処置を行うにあたって歯の状態を観察するために口内法エックス線撮影を行った。口内法エックス線写真 (写真 1) では、上顎左側中切歯部は不十分な根管充填処置が施されているが、根尖部に埋伏過剰歯が重なり充填状態および根尖部周囲組織の状態が判読困難であったため、根尖部と埋伏歯の位置的関係を確認するために 3DX[®] を行った。上顎左側中切歯部の根尖部中央部を観察した 3DX[®] (写真 2) 画像では、上顎左側中切歯は根管の根尖部に死腔がみられる不十分

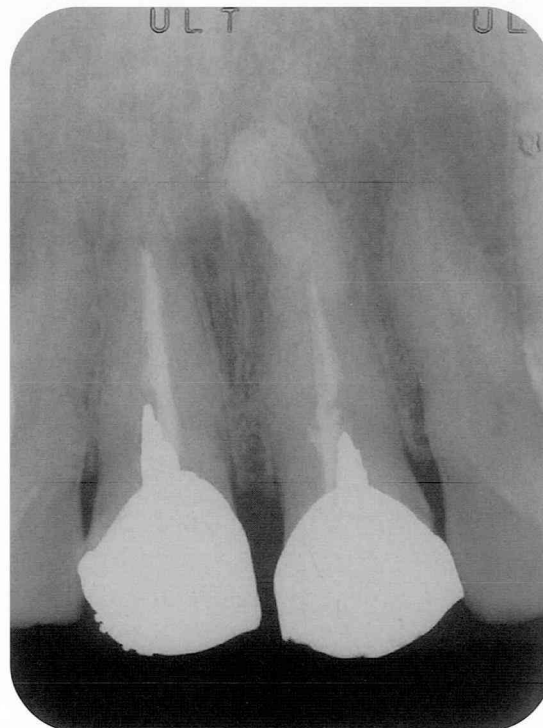


写真 1 : 口内法エックス線写真では、上顎左側中切歯部は不十分な根管充填を認め、左側中切歯においては根尖部に重複する過剰埋伏歯と思われる不透過像を認める。

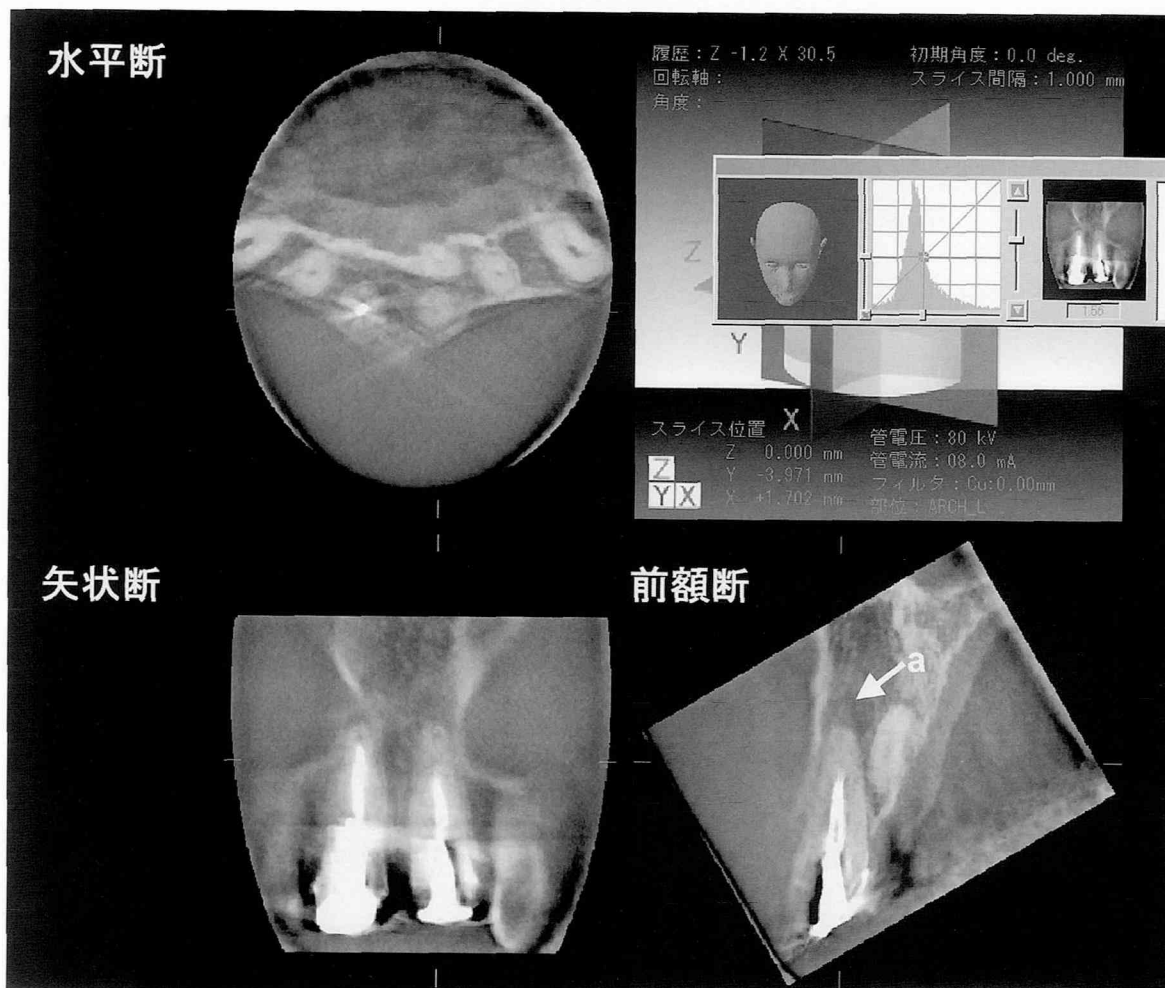


写真2: 3DX[®]矢状断面画像および前額断面において, 上顎左側中切歯および右側中切歯ともに不足根管充填で, 根管に明らかな死腔が示され, その根尖部には骨硬化縁を伴う境界明瞭な透過像(矢印a)を認め, 過剰埋伏歯は上顎左側中切歯根尖部の舌側に位置していた。

な根管充填が示され骨硬化縁を伴う境界明瞭な透過像を認め(写真2矢印a), 埋伏歯は上顎左側中切歯根尖部の舌側に位置していた。さらに上顎左側中切歯部の舌側部方向への画像観察を行うと根尖病変は埋伏歯周囲の透過像と連続しているのが認められた(写真3矢印a)。また, この埋伏歯の歯冠部の一部が切歯管に及んでいるように存在しているのが認められた(写真3矢印b)。

今回の症例では, 口内法エックス線写真では観察されなかった上顎左側中切歯部の根尖病変や埋伏歯との位置関係も3DX[®]検査により確認でき, これにより担当医に多くの画像情報を提供するこ

とができた。その結果, 根管治療を優先的に行っていき, 外科的歯内療法処置の適否や時期また埋伏歯の抜去などの今後の治療方針が容易に決定できた。また患者に画像を提示することによりインフォームドコンセントが十分に得られた1例であった。

文 献

- 1) 篠田宏司監修(2003) 歯科用小型X線CTによる3次元画像診断と治療, 第1版, 18-24, 医歯薬出版, 東京。

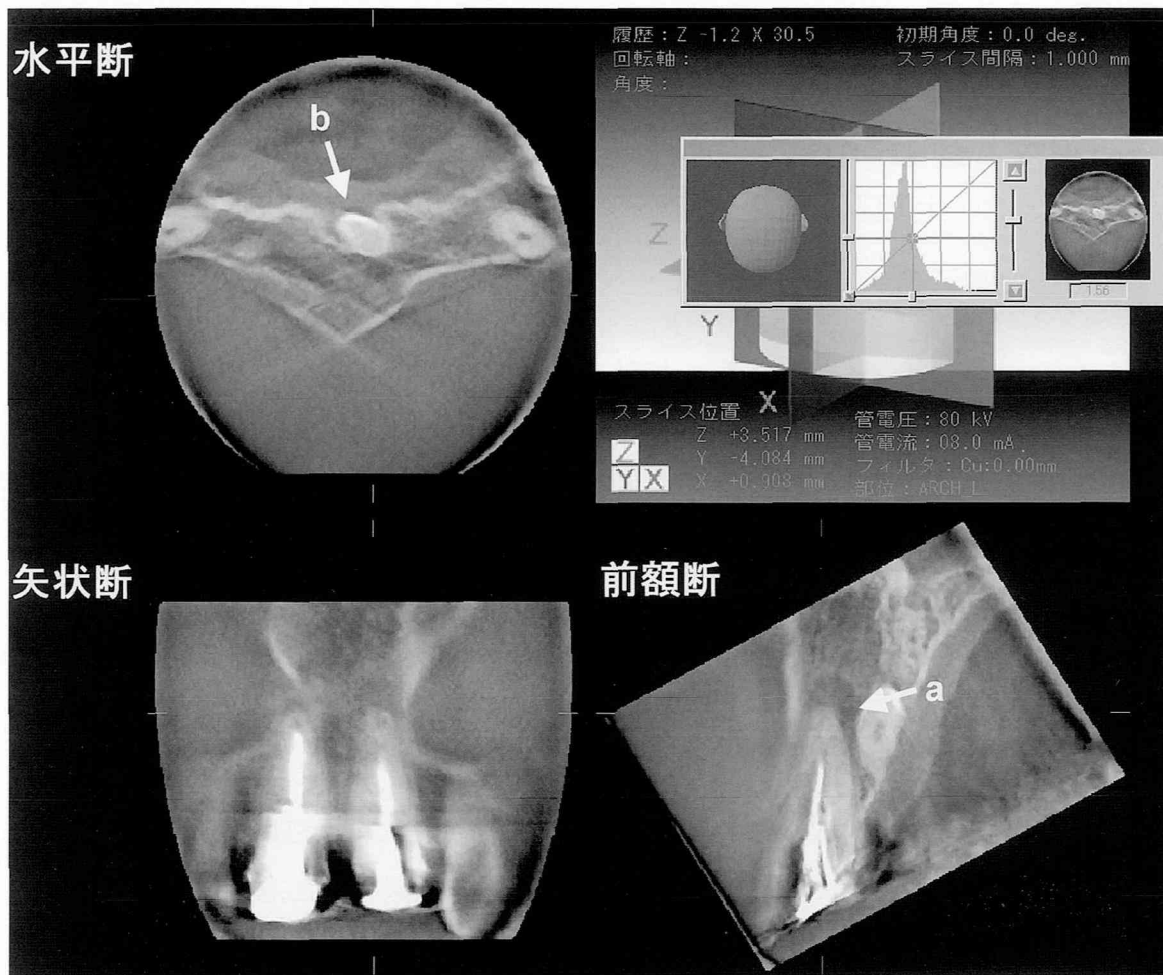


写真3: 舌側方向への観察を行うと根尖病変は埋伏歯周囲の透過像と連続しているのが認められた(矢印 a)。水平断面画像では過剰埋伏歯の歯冠部の一部が切歯管に食い込むように存在しているのが認められた矢印 b)。